

所 信 表 明

令和5年3月10日

豊能町長 上 浦 登

本日ここに、令和5年 豊能町議会3月定例会議が開催されるにあたり、お許しをいただきましたので、私が町政を推進するにあたっての基本的な考え方や所信の一端を申し述べ、議員各位並びに町民の皆さまのご理解とご協力をいただきたいと思います。

さて、私事でございますが、令和5年2月14日に告示されました豊能町長選挙におきまして、無投票による当選をいただき、栄えある第13代、8人目の豊能町長として、町政運営を担うことになりました。

3月3日に初登庁し、豊能町のリーダーとして舵取りを行うという重大な仕事を担うということに大きな喜びを感じるとともに、私たちの子や孫、その先の将来を担う世代にまで、持続可能な豊能町を築き上げていかなければならないという重大な責務に対し、改めてその職責の重さに身の引き締まる思いでございます。

今後は、住民との対話を重視し、議会と行政が一体となり、問題を先送りしない「責任ある政治」を目指し、町政運営に邁進してまいりたいと考えています。

私は、豊能町に生まれ、幼年期、青年期を豊能町で過ごした後、昭和58年に豊能町に奉職し、令和3年に退職するまでの38年間、豊能町の職員として様々な部署に配属となり、様々な職務を経験して参りました。

その中でも、医療、介護、福祉など、福祉施策を司る職務での経験が私の考えに大きな影響を与えました。福祉現場での経験などを踏まえ、かつてのイギリスのスローガンである「ゆりかごから墓場まで」という社会保障制度の充実を形容する言葉どおり、豊能町住民の皆さまには、一生涯安心して暮らしていける、そんなまちづくりを行っていききたいという思いを強くしていきました。

また、豊能町職員としての長い実務経験の中で、現在の豊能町が置かれている厳しい状況についても十分理解しております。

豊能町は、昭和40年代からベッドタウンとしてニュータウン開発が進み、ときわ台、光風台、東ときわ台、希望ヶ丘、新光風台と各地区への入居が進むにつれて、平成7年には2万6千人を超える人口（26,617人 国勢調査）まで急激に増加しました。

しかし、その後、少子高齢化と若年層の都市部への流出を主な要因として人口が減少し、今後も、その傾向は続くと思われています。

そのようなことから、令和2年国勢調査の結果により、本町は「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」の規定による過疎地域の要件を満たすこととなり、令和4年4月1日付けで過疎地域として公示されたところです。

また、財政面においては、町域の約7割が山林で占められており、残りの大部分はニュータウンの住宅地となっていることから、大規模な商工業地、集客施設などがいないため、町税収入の9割以上は個人の住民税と固定資産税が占めています。高齢化による退職と人口減少に伴い、現在の税収は、ピーク時である平成9年度の約半分にまで落ち込んでいる状況です。

収入が減少傾向であるのに対し、東西に分かれた地理的構造に伴う職員配置や、人口急増期に整備した公共施設の維持管理費用などにより、支出額に占める経常的経費の割合が高い水準にあります。今後、世界的に影響を及ぼしている物価の上昇や、高齢化の進行により、

医療、介護などの社会保障に係る費用の増加が見込まれるなど、義務的に支出を要する経費は増加傾向にあるところです。

このような状況で、持続可能な財政運営を行うためには、公共施設の再編や既存事業の見直しなど、行財政運営の効率化を図る方策は避けて通れないものと考えています。

このように、豊能町の現状はかなり厳しいものであることは事実ですが、一方で、明るい未来にむけての兆しが豊能町に生まれつつあります。

箕面グリーンロードや新名神高速道路の開通により、国道423号や477号の交通量が増加し、コンビニエンスストアや個性的な事業所が出店したり、沿道の地域では賑わいが出始めています。この兆しを大切にし、より発展させていくことにより、町の活性化、人口増、収入増につなげていくことができると考えています。

私は、「希望あふれる豊能の未来を切り拓く」ため、だれ一人取り残すことなく、豊能町にお住まいの方、全員が安心して住み続けることができ、生まれてから一生、豊能町に住み続けたい、と思えるようなまちづくりを目指して参りたいと考えています。

こうした思いを実現するため、住民の皆さま、議会の皆さま、そし

て私たち行政の職員全員が一丸となり、豊能町に希望あふれる未来を目指していく決意でございます。

議員の皆さま、住民の皆さまにおかれましては、より一層のご理解、ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

それでは、私がこれから進めてまいります豊能町のまちづくりに向けた基本的な考え方を述べさせていただきます。

1. 民間事業所などとの連携により医療・介護・福祉・見守りの体制を強化し、誰もが安心して住み続けることができるまちづくりを進めます。

2. 長年の懸案事項でありますダイオキシン類を含む廃棄物の最終処分につきましては、住民の皆さまと十分に対話を重ねた上、解決に向けて全力で取り組んで参ります。

3. 持続可能な財政運営を行うため、財政健全化に向けて全力で取り組むとともに、公民連携やスマートシティなどにより行政改革を進め、業務の効率化を図ります。

4. 義務教育学校の整備と公共施設の再編・集約によるコンパクトなまちづくりを進めるとともに、公有財産を有効に活用し町の活性化につなげていきます。

5. 近年、高齢者の孤独死・孤立死が社会問題となっています。高齢化が進む豊能町では、これから特に深刻な問題であると考えています。誰一人独りぼっちにさせない、しない孤独・孤立対策の取り組みを促進します。

6. 箕面グリーンロードの開通や新名神高速道路の開通を機に、豊能町においても活性化の兆しが見え始めています。この機を逃さず事業所の企業誘致などを積極的に進め、雇用創出と町の活性化を図ります。

7. 主に住宅地と山林により構成される豊能町において、農業は基幹産業であり、農業の活性化は町全体の活性化につながると考えています。農業生産力と販売力の向上を図るとともに、就農者を育成し、農産物の販路拡充に努めます。

8. 豊能町における公共交通の利用者は年々減少傾向にあります。しかし、高齢化が進む中、自家用車による移動ができなくなる方が増加するにつれ、公共交通の重要性はこれからますます高まっていきます。能勢電鉄・阪急バスなど公共交通機関の利便性の向上に努めて参ります。

9. 子どもたちは、次の世代を担う地域の宝です。町の子ども一人ひとりの成長を社会全体で応援する環境を整備するため、保育環境を充実し、子育てしやすいまちづくりを進めます。

10. 教育力の向上と郷土愛の醸成を目指すため、地域との連携を深めるとともに、放課後を活用した教室を開設し、学力の定着・向上を図ります。

私の所信の一端として以上10項目を申し述べました。

私は、議会、国、大阪府、近隣市町との連携を強化し、豊能町が一つになって、持続可能な行政運営を実現するため、38年間に及ぶ長年の行政経験を活かし、職員と協力しながら、一丸となって、課題を先送りすることなく責任ある行政を行うことをこの場をもって改めて申し上げます。

私たちがこれから歩んで参ります道は、何もしなくても明るい未来が待つ平坦な道ではありません。しかし、議員の皆さまをはじめ、住民の皆さまとの対話を重ね、住民・議会・行政が一体となった行政運営を行うことにより、豊能町の未来が希望の光にあふれるものになると確信しております。

住民の皆さま、議員の皆さまにおかれましては、私の意図するところをお汲み取りいただき、胸を張って次の世代にバトンタッチできる持続可能なまちづくりのため、さらなるご理解、ご協力、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和5年3月10日

豊能町長 上 浦 登